感　染　症　対　策　運　営　要　領

北丹陸上競技協会では、公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び公益財団法人日本陸上競技連盟「陸上競技活動再開のガイダンス」に沿った新型コロナウィルス感染症予防対策マニュアルを策定しています。この記録会はこのマニュアルを遵守し実施します。

＜基本事項と当日の流れ＞

1　開閉会式は行わない。表彰も競技種目終了後毎に順次実施する。競技者は自己の競技時刻に合わせて来場し、競技終了後は速やかに退場し帰宅すること。

2　無観客開催とする（応援の保護者等の来場はお断りします）。陸上競技場メインスタンド（競技場フェンス内）への入場は、競技者及びチーム関係者（監督、顧問、マネージャー）、競技役員、補助員及び主催者が特に認めた者のみとし、入場時にＩＤカードの提示を求める。またチーム関係者は、所属が証明できるものを提示してもらう場合がある。

3　入退場口は、メインスタンド東側（Ａ、Ｂ）と西側（Ｃ、Ｄ）、競技場西側スロープ入口ゲート（Ｅ）及び競技場東側スロープ入口ゲート（Ｆ）の6か所とし、それ以外の出入口は使用しない。ただし、（Ｆ）は救急対応時のみの入退場口として使用する。（Ｂ）及び（Ｃ）は選手と役員の通路を別としコーンで区切り、（Ｅ）の入退口は、入場と退場それぞれコーンで区切る。入場口では、消毒液配置と忘れた人へのマスク配付を行う。受付担当者はマスクのほか、フェイスシールドを着用する。

4　競技者は、マスク、タオル、衣類入れのビニール袋の持参を必須とする。

5　常に、手指消毒、手洗い、洗顔など励行すること。熱中症にも十分注意し、水分の持参、日陰での適度な休憩を心がけること。

＜競技に関する対策＞

1　選手と至近距離で対面する役員や補助員はフェイスシールドを着用する。

2　現地にて2次招集をする。トラックは2～3組単位で距離を取って（2m）整列させる。フィールドは人数を分けて招集して密集をつくらないようにする。

3　競技中とW-Up時はマスクをしなくてもよいが、待機中はマスクを着用するよう指導する。

4　競技中にはツバやタンを吐かないように競技開始前に注意する。

5　給水する場合は、紙コップにより行い、手渡ししない。

6　競技役員打ち合わせは実施しない。各係別に現地などで実施し、全体への連絡は放送で行う。

＜競技外の対策＞

1　写真判定室は、換気のため常時窓や出入口を開放しておく。

2　競技場内では、3密回避のため、周囲とソーシャルディスタンス（できるだけ 2m 最低 1m を目安に）をとること。大きな声での応援、集団での応援は禁止する。アナウンスにて随時、競技場内での適度な距離とマスク着用を呼びかける。

3　定期的に（1時間ごと）トイレやドアノブなどの消毒をする。またトランシーバーや手旗はできるだけ共用をさけ、共用する場合は必ず前後に手指、機器を消毒する。

4　ゴミの各自持ち帰りを呼び掛ける。

5　事前事後のミーティングや反省会は自粛するよう要請する。

＜競技者・競技役員への周知事項＞

1　体調不良の場合は参加を辞退すること。

2　当日受付時には、体調管理チェックシートを提出すること。提出しない場合は、競技場内への入場はできない。また競技者は出場を認めない。ただし、検温を受検し37度未満であれば、入場・出場を認める場合がある。

3　各個人でマスクとハンドタオルを、また競技者は、競技出場時に脱衣した衣類入れポリ袋を持参すること。
4　会場ではこまめな手洗い、手指消毒、運動後の洗顔を励行すること。
5　会場では他の参加者や、スタッフとの距離を確保すること。
6　大きな声での会話、応援はしないこと。
7　招集、記録発表は、当日の指示やプログラム、掲示、WEBなどで確認すること。
8　会場への来場は、競技時間に合わせるなど、時差来場に協力すること。
9　保護者などの応援来場は禁止とする。また競技終了後は速やかに退場すること。

＜帰宅後の注意＞

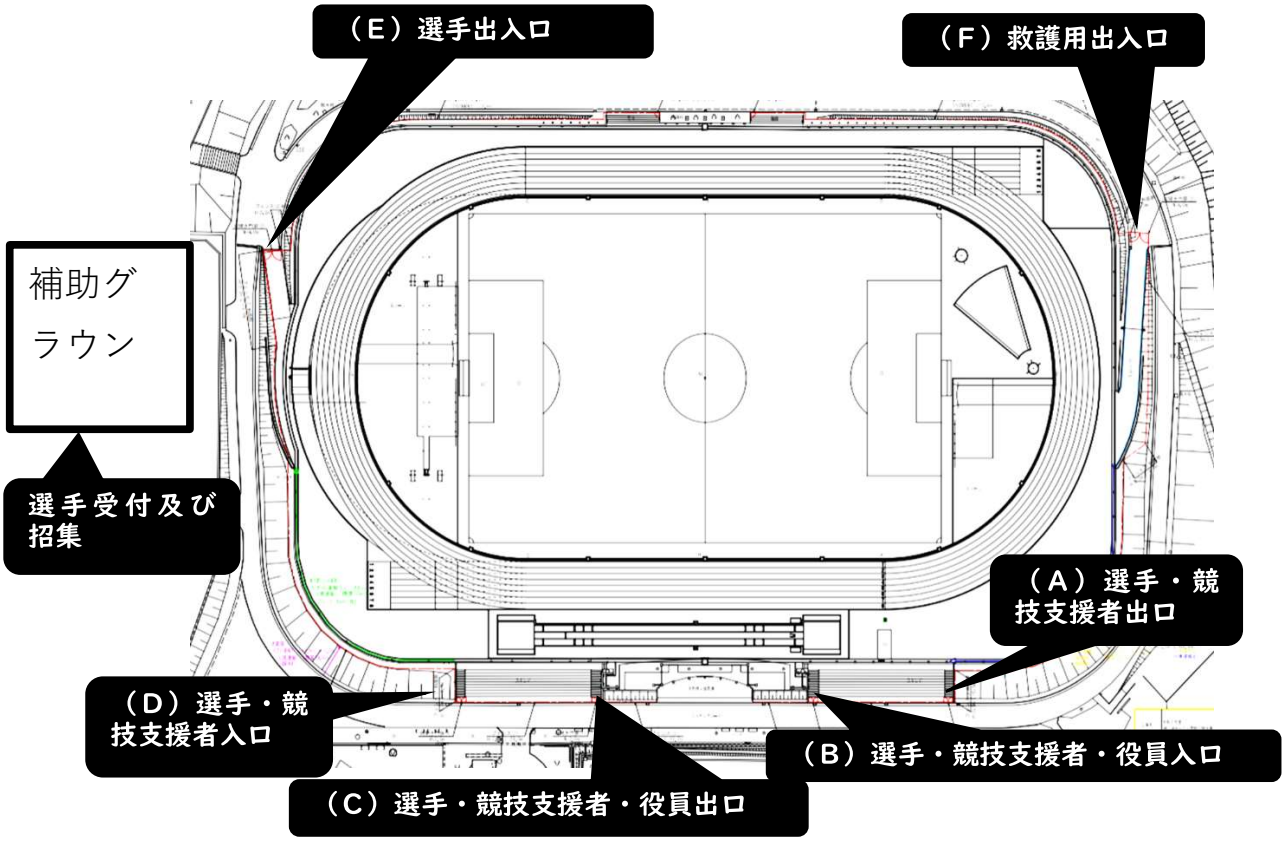
1　2週間以内は検温を実施し、発熱や体調に異常があれば下記に連絡すること。

新型コロナ医療相談センター　075-414-5487

北丹陸上競技協会（感染症対策室）　高橋尚義　090-4497-5422

【感染症対策室】

本記録会における感染症対策室員の構成は、以下のとおりとする。

谷口正郎・高橋尚義・梅田匡純　３名

＜競技場内への出入りについて＞